



社会福祉法人 村 山 苑

# 村山苑だより



## 「新年を迎えて」

理事長 品川 卓正



新年あけましておめでとうございます。令和元年十二月、中国の武漢市で発生した新型コロナウイルスは、感染初期の段階では中国国内で感染は収束するのではないか、と予測されていましたが、その後、瞬く間に世界全域に感染が拡大し、多くの犠牲者が出ています。現在も感染は拡大の傾向にあり、ワクチンの開発を進めつつ、感染の拡大防止に世界各国が努力している状況です。日本国内でも感染拡大が続いており、ウイルスの活動が活発化する寒い冬をどう乗り切るかが懸念されているところです。

専門家の意見として、新型コロナウイルスの感染の収束には相当な時間を要するのではないかと言われています。このことは、社会福祉法人施設に、新型コロナウイルス禍の中でどのような経営をし、利用者支援を継続するのかが問われるのではないのでしょうか。村山苑としては、昨年四月の緊急事態宣言発令の際、感染防止対策の徹底として指示された不要不急の外出控え・三密（密閉、密集、密接）の回避、マスクの着用、手洗い及び手指消毒等を法人内各施設で再確認し、感染拡大の防止に努力し、そのうえで、家族の面会や行事等の実施を具体的な計画のもとに考えていきたいと思っております。

昨年度から改築を進めている第2ハトホーム改築工事は、地域の皆様方のご理解と関係者の努力により、順調に進んでいます。計画通り2月に完成し、5月には清瀬の仮園舎からの引っ越しができると思っております。今年度は、改築後の経営について課題を整理して明確にし、優先順位をつけて取り組み、特養2施設の事業継続に向け、努力していきたいと考えています。

そして、今年も引き続き、人材確保にあらゆる手段を講じて取り組み、研修等の充実と職場環境の改善を図り、定着に結び付けられればと思います。また、経営施設の更なる発展と法人施設を取り巻く環境を見据え、安定した法人経営を目指すために、中長期計画の策定に努力するとともに、引き続き、地域公益活動への取り組みにも積極的に関わりたいと思っております。

# 令和二年度 法人研修について

研修担当施設長 芦崎 康彦

令和二年度の法人研修は、コロナ禍の中で当初の年間計画を大幅な変更を余儀なくされたの実施となっていました。特に三月に予定されていた新任職員研修は七月に延期することになりましたが、再延期し九月に二日間の日程を一日としての開催としました。また、当初実施予定としていた特定職種（看護師・栄養士）の二研修は中止とするとともに、他の研修もコロナ対策を踏まえての実施を模索し、人数の縮小や日程変更等を行うことで実施に繋がっています。今年度の実施した研修及び実施予定研修は次の通りとなっています。

No.	研修名	実施日	参加人数	対象者
1	ステップアップ研修	7月10日	12名	障害者雇用採用者非常勤
2	新任職員研修 10/19(月)は理事長講義のみ	9月14日 (10月19日)	25名 (6名)	令和2年度新規採用者 令和元年度中途採用者
3	フォローフォロー研修	10月20日	17名	勤続5年～10年の職員
4	テーマ別研修	11月9日	21名	各施設からの推薦者
5	フォローアップ研修	12月8日		新任職員研修参加者
6	福祉サービス研究研修	1月19日		各施設からの推薦者

① ステップアップ研修は、「村山苑で長く働いために」をテーマとして参加者及び各施設の障害者雇用担当者による意見交換を実施しました。

② 新任職員研修は、理事長より「社会福祉法人の使命と村山苑」という題材で、村山苑の歴史や基本理念、持続可能な開発目標（SDGs）等についての講義、法人の規則や規程、施設紹介、社会人としての心構え・マナー、虐待防止・苦情受付・第三者委員について等、常務理事、事務局長及び各施設長による講義形式で実施しました。

③ フォローフォロー研修は、「人材確保と定着について」をテーマとしてグループ別での意見交換を実施し、各グループで出された意見を発表する形式で実施しました。

④ テーマ別研修は、アンガーマネジメントについて学ぶため外部から講師を招き、「信頼され安心できる施設職員になるために」をテーマとして講義、グループワーク形式で実施しました。

⑤ フォローアップ研修は、茶話会形式で新任職員研修後の近況報告や情報交換、悩み等について話し合い、同期としての絆が深まることを目指す。



的として実施しました。

⑥ 福祉サービス研究研修は、例年は全施設からの発表としましたが、コロナ禍にあることから五施設の発表として規模を縮小して実施する予定です。

これらの研修につきましては、毎回、研修に対する感想や意見等を提出していただき、集約したものをフィードバックするとともに今後の研修や業務改善、法人経営などにも役立てていくように取り組んでいます。また、参加した職員から新たな気づきや研修に対する感想や意見等について一部ですがここに紹介させて頂きます。

## ○新任職員研修より

品川理事長より、村山苑の基本理念、法人の沿革、職員としての心構え等の話がありました。理念が何故必要なのか？それは組織の原点であり、職員が一人ひとりそれを周知し方向性を見出すことで質の高いサービスを提供できるということ、その為には、目標や計画の達成状況を評価する仕組みを定着させ日々の業務を改善させることが大切だということでした。理念にある「愛」と「人間愛」については、相手の立場に立って、思いやりの心を持って接すること、

深い理解が生まれるのではないかと思いました。私も「相手の立場に立つて」物事を考えたり、発信していきたいと思えました。社会福祉法人村山苑の存在意義は、地域との関係に重点を置き地域から信頼される法人にならなくてはならないということでした。そのためには、理念を理解し、利用者の方々へより良い福祉サービスが出来るよう心掛けたいと思えました。



今回の研修で、村山苑の成り立ちを知り、戦後一年程での財団法人から現在の村山苑へと連なる歴史と、携わった心ある方々の係りを詳しく知ることができました。今の理念に連なる歴史と実績を知ることができ、その仲間に加わっているという自覚と誇りを感じる事が出来ました。日々の仕事で利用者やご家族と関係者の方々と、そして同じ職場の職員達とできるだけ素直に正直に向き合い、求められている事を理解し共感し、信頼していただける様に自分を励まし、実践していきたいと思えました。

SDGsについては、全く知らない言葉、内容だったので、このような国際目標があるという事を知り、福祉施設で働く一員として目標を意識して自分の行動を見直して行かなければならないと思えました。社会福祉法人の存在意義については、このコロナ禍において社会福祉法人の存在意義を改めて考えさせられました。利用者の方々全ての要望をありのまま受け入れるのではなく、家族や利用者の方々の状況を考えて対応すべきと思えました。虐待防止については、就業規則にも明記されていますが、保育園で働く者にとって、子どもたちの人格や尊厳を第一に考えて、より添い保育をしていく事は本

当に大切だと思います。自分がもしかしたら虐待をしてしまうかもしれない。そんな場面もあるかもしれないが、そうなる前に誰でも周りの人に相談し、自分の行動を顧みていかなければならないと思います。

利用者様の事を考えて今まで業務にあたっているつもりでしたが、その先にいるご家族や地域の方のことまではなかなか考えていなかった。ので、あらためて福祉サービスという事を考える機会になりました。今回の研修で村山苑という組織が、いろいろな分野の福祉を担っている事を知り、また、その組織の一員となったんだなど感じました。

### ○テーマ別研修より

「信頼され安心できる施設職員になるために」(アンガーマネジメントで上手に感情コントロール)

初めて今回の研修で聞いたアンガーマネジメントについて知ることが出来ました。怒りの感情とは何か。また、自分の怒りの原因は何かを考えて自己診断することが、気づくことが大切だと学んだ。その怒り、アンガーマネジメントの三つのコントロールを学んだので実践しているかと思えます。伝え方については、改めて自分が普段伝えている言葉を振り返ることが出来たので、明日からも自分の伝え方に気を付けていきたいと思えます。

自分を知ること、がとても大切であるという事をいちばんに学びました。自分の中で「○○するべき」という物差しを相手に求めることでストレスに感じることが多々あるのですが、相手にも「○○するべき」が



あるということを知るとポジティブに変換できそうです。私たちの感情を生み出しているのは私たち自身、自分の感情に振り回されずに相手の感情に振り回されずに「こうして欲しい」を伝える、大きな学びになりました。



自分が思っている「べき」を裏切られた時に怒りが生じる。という話は「あく本当だ」とつくづく考えさせられました。衝動のコントロールの対処法の一つでもやれるように場面場面で思い出していきたい。悪いしかり方の例(NGワード)は、「ドキッ」とするほど「やっつてる」と思い反省しました。「自分の感情に振り回されず、他の人の感情に振り回されないように」を考えながら対処法を行っていききたい。

アンガーマネジメントについて今まで学ぶ機会がなかったので、研修を受けることができてよかった。問題となる四つの怒りから、自己診断で自分の怒りについて、タイプに気づくことができた。何かや誰かのせいなどにしてイライラしてしまい、自分の感情に振り回されていたが、また、相手の感情などにも振り回されないように伝えることでマイナスに働かないことなど理解できた。このときの伝え方、言葉使いを気をつけることでイライラせずにすごせることも学ぶことができた。

1グループ四名と少人数だったので意見等が言いやすい環境だったと感じる。色々な施設の方のグループだったので仕事をしている中での話を聞くことができた。利用者の支援、介助をしていくうえで仕事の大変さなど、保育園とは違う話を聞くことが出来たことも普段なかなか聞くことがないのでよかった。以上

# 施設通信

ハトホーム

教えて 本田先生!!

統括主任 吉野 栄祐

十月に施設内で、「褥瘡予防」についての内部研修を行いました。一般的に「床ずれ」と呼ばれている「褥瘡」。同じ体勢を取り続けることによる接触局所の血行不全により、周辺皮膚組織に壊死を起こしてしまうもので、時には生命に影響することもあります。

施設内では、「褥瘡予防」における委員会を毎月開催する等、個人個人に合わせた対策を実施しています。

普段は「できる限り自分で身の回りのことができるように」と入居者ひとりひとりの心身状態に合わせた



機能訓練を行っている機能訓練指導員の本田さん。除圧に関する知識が豊富であり、その知識を少しでも共有し、「どの職員でも効果的な予防対応ができるように」と、研修を行いました。

今回は、筋群や腱といった身体の仕組みをふまえた安楽姿勢について、普段接する入居者をモデルに実践指導が行われました。より施設の実態に合った研修を行う事ができ、大変有意義でした。

生活スタイルや身体の状況はひとそれぞれ：今回の研修をきっかけに、今後も情報の共有を重ね、より一層、職員間の技術向上意識に繋がるよう期待したいです。

## ひよし保育園

どんなことでも

プラス1を目指して

主任保育士 寺島 由美

ひよし保育園はコロナという「見えない怖さ」と向き合いながらも決して背を向けることなく「できること」を考え続けてきました。自粛期間中には家庭でもできる製作キットを作り、一軒ずつ保育士が郵便屋さんとなって届けながら子どもたちの状況を把握してきました。また、「ひよし青空文庫」と称して絵本の貸し出しを行い、園の駐車場でちよつとした子育て相談。短い時間でも言葉を交わす大切さを感じました。また今年度の行事に関しては、やらない選択肢をもたないと決め、【今でき



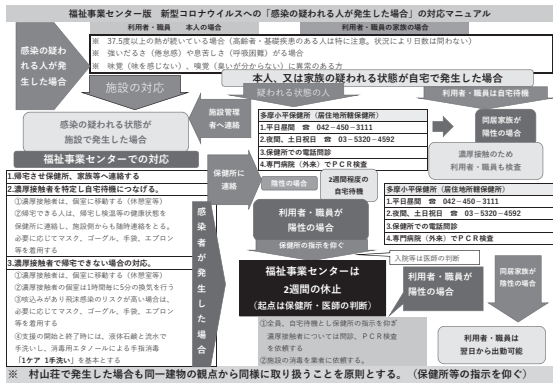
ることは何か?】一つひとつ話し合いを重ねてきました。まず毎月行ってきた誕生会に保護者が参加していましたが、密になることを踏まえ現状下では不参加という決断をしました。だからこそ、保護者の方に喜んでもらえる「ひよしプラス1」を考えていこうと話し合いを重ね、誕生カードにプラス1を作成することになりました。誕生会中の姿と、保育の中のベストショットを撮ってラミネートしたものをプレゼント。保護者の方々からは参加できなくて残念だけど、保育園の思いが伝わると言ってもらえました。これからも常に何ができるのか考えていけるひよしでありたい「ひよしファミリー」でこの状況を笑い合いながら歩んでいきたいと思っています。



## 福祉事業センター コロナ禍での支援

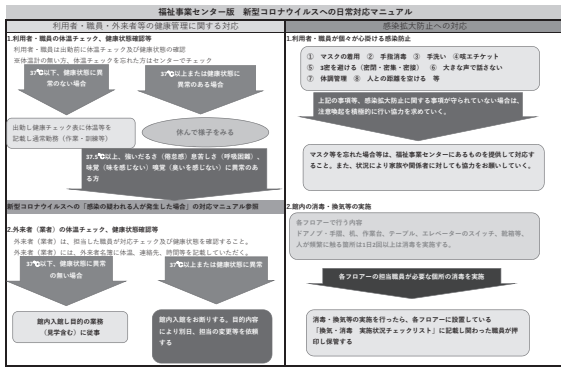
サービス管理責任者 端山伸一郎

令和二年四月新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言以降「新しい日常生活」の提言に即し「感染予防マニュアル」を作成。「利用者ご家族の安心・安全と、地域社会との連携」に向けサービス提供に努めています。しかし、感染への不安は大きく十名の利用者が通所を控えられることになりました。当事業所として、該当する利用者には、スムーズな通所再開が図れるよう、電話による在宅でのサービス提供を実施。健康確認表を作成し、毎朝の体温・体調・睡眠の状況や不安なことが無いかなを確



認しつつ、その日の活動内容を一緒に考え目標を立て、夕方の連絡で達成度合いを確認しながら本人のモチベーション維持を支援。日中は個々の生活状況に応じて、食事の準備や後片付け、掃除等の家事手伝い、ラジオ体操やストレッチ運動、あるいは計算や漢字ドリル等の学習課題に取り組みで頂きました。支援継続の結果、一ヶ月の間に支障なく利用復帰を果たすことができました。

現在もコロナ禍の影響は大きく、取引先の受注が激減し、日中活動に支障が出ていますが、新たに法人からの協力、連携を得て「洗濯業務」の受注を頂きました。引き続きコロナに負けず、利用者の「働け権利」を守り、サービス提供に取り組みで参ります。



## ふじみ保育園 「COVID-19で得られた 行事のあり方」

園長 山城 一予

今年度はCOVID-19のため、行事は慎重な検討が必要となりました。しかし、危険だからと即、中止にするのではなく、リスクを出来る限り減らす工夫をして「子どもの豊かな体験」を大切にしようとして職員と子どもたちと話し合いながら進めてきている一年です。

五歳児のあきる野市へのお泊り保育も、出来る方法を模索し、電車を大型バスに変更、三十畳の二部屋使用、食堂テーブルには間仕切り設置、お風呂も二カ所使わせていただく等々、宿の方のご厚意に支えられました。子どもたちが企画した「川で遊ぶ、マスつかみをして食す、キャンプファイヤー、花火、公園で探検・冒険したい等々」を自然の中で満喫してきました。四歳児の園内お泊りも、子どもたちの企画を全職員で支えて行いました。

運動会や秋祭りでも、子どもたちはその企画力を発揮し、運動会は幼児中心でクラス毎の入れ替え制とし、「親子で何かしたい」というのも、子どもたちの企画でした。



祭りも夏から秋に変更し、豊年豊作を祝う主旨で「豊年太鼓」や魚釣り、芋ほり、その他たくさんのお店屋さん開店案が子どもたちから出され、四日間にわたり楽しみました。

COVID-19で行事を根本から見直したことで、何もないところから創り出す力が子どもたちについて実感しています。そして、全ての行事に保護者様がご理解、ご協力頂いたことが、なにより心の支えとなりました。

今後もCOVID-19等々のリスク対策をしながら、「子ども主体の保育」を主軸におき、子どもたちの笑顔があふれる日々を守っていききたいと思えます。

## 第2ハトホーム

### 新しいかたち

施設長 岡野 雅和

昨年は、新型コロナウイルス感染症に始まり、新型コロナウイルス感染症に終わると言っても過言ではない一年となりました。コロナ禍での施設運営は入居者様、ご家族様、そして職員にも大きな負担となつてのしかかり、日々「感染をしない・させない」というプレッシャーとともに過ごすこととなりました。

「施設行事」は、自粛せざるを得ない状況とそれでも何かの形で提供したいという思いとのジレンマの中で、これまでのようにご家族様やボ



ランテイアの方々などに頼らず（頼れず）、「職員によって提供する」ことが求められました。また、ご家族様等の「面会」は感染拡大の状況を確認しながら、やむを得ず制限等をさせていただくこととなり、「オンラインによる面会」という新たな方法に取り組みました。

しかし、このような逆境の中での経験は、職員が力を合わせて作り上げることによるチーム力の向上や、新たな面会方法によってより多くのご家族が面会できるようになるなど、新たな取り組みがコロナ禍限定でなく、第2ハトホームの「新しいかたち」となって今後の施設運営にプラスになると確信しています。

## つぼみ保育園

### 夏のあそび

保育士 金井美千代

例年、夏はプールあそびが定番ですが今年度はプールには入らずに過ごそうということになり、一歳児クラスは、タライやバケツに水をためて水遊びをすることにしました。

中庭やテラスで水遊び、水やお湯を触ってみると水の感触や温度が手から伝わり「ツメタイネ」「アツタカイン」と、水に慣れて行きました。石鹸や絵の具も使って遊んでみると、色水やフィンガーペイントが始まり、窓ガラスに絵の具や泡で絵を描くとペタペタと音がして紙にはない感触を楽しんでいました。そして、



泡の優しい感触に触れ「フワフワダネ」と言いながら水に消えていく泡を不思議そうに見ていました。

中庭の水たまりに入ると泥のヌルツという感触が気持ちよかったようで、水たまりの中で走ったり、ジャンプしたり、そのうち全身泥んこまみれになって遊んでいました。

『今日どんな遊びをしようかな』と目を輝かせてテラスへ行く子どもたち、日々遊びが広がって行き水あそびが大好きになりました。

普段の夏なら、プール遊びだけで終わります。一歳児でこんなに泥んこや絵の具・泡で遊ぶことは例年の夏ならあまりありません。泥んこ遊びをして子どもたちは、心身ともに開放され、感触遊びを通してまた一つ出来ること、楽しいことを見つけました。コロナ禍で例年のように同じことが出来ませんでした。楽しい経験が子どもたちを成長させてくれました。

ほんちよう保育園  
現状からの課題

園長 右田 尚子

令和二年の年明けから始まった、新型コロナウイルス感染症防止対策の中で保育も長期間になつていま

登降園の仕方から行事の実施の有無とやり方、食事のテーブルの置き方、昼寝の布団の敷き方、トイレの行き方、手の洗い方・今まで当たり前だったことの何から何まで見直しが必要ですが、子どもたちと過ごす毎日の中で少しずつ対策が整理されてきました。

四月から接触を避け保育室に入らずベランダからの送迎が半年以上続いているため、立ち話やお迎え時にホッとしゃがんでおしゃべりをする事ができません。保護者にお手伝い頂く行事も縮小になり、協同し横の繋がりをつくる機会が減っていると感じています。通常は朝夕の送迎時、荷物の準備をしながら話をしたり、壁に飾ってある絵や作品を観ながら「今日これ創ったんですよ」と保育の様子をお伝えし、そこからいろいろ話が広がりますが、それもままならない状況があります。保育



園は、子育ての大変さは半分、楽しさは二倍になる保護者の仲間づくりの場でもあります。保育園時代でできた繋がりが子どもたちが大きくなっても続き、時々集まっているという話をたくさんお聞きします。保護者と保護者、そして保護者と保育園の関係づくりにおいて今まで自然にできていたことを改めて意識し、後半の課題にしたいと思っております。

第三者委員の交代について

野田敦子委員の後任として

委嘱いたしました。



第三者委員

丹澤 育子

任期：令和二年十二月一日〜

令和三年三月三十一日

「TOKYO働きやすい  
福祉の職場宣言」について

常務理事 手塚 真一

救護施設村山荘とさつき荘は「TOKYO働きやすい福祉の職場宣言」事業所として宣言いたしました。この事業は、東京都が平成二十九年から行っており、働きやすい職場づくりに取り組むことを宣言する社会福祉施設・事業所が、人材育成、キャリアパス、ライフワークバランス、職場風土など、働きやすさに関する情報を公表することで、福祉人材の確保を推進するとともに、福祉業界全体の職場環境の向上を図るものであり、法人内でも既に特別養護老人ホームハトホームが宣言しています。

村山苑は、東京都が明示した働きやすさの指標となる項目「働きやすい福祉の職場ガイドライン」を踏まえ、働く人にやさしい職場づくりに取り組んでいます。

福祉人材の確保は、多くの法人が厳しい状況にあり、共通の課題でもあります。法人、施設が情報を公開することで、求職者が勤務条件や職場環境など自分に合った事業所を選択し、定着率を高めることもできると思います。働きやすさに関する情報については東京都福



祉人材情報バンクシステム「ふくむすび」で公開されておりますので是非ご覧ください。  
「ふくむすび」  
<https://www.fukushi.jinzai.metro.tokyo.jp/>

寄附について

左記期間において、御寄附頂いた皆様をご紹介致します。  
ご支援ご協力頂き、心から感謝申し上げます。(敬称略)

■平成三十一年四月一日～  
令和二年三月三十一日

- 相原弘子
- 安齋正行
- 石塚和子
- 植田 哲
- 大谷建興株式会社
- 株式会社共伸インテリア
- 株式会社光洋
- 株式会社コスモス医工
- 株式会社真栄パートナーズ
- 株式会社保谷園
- 株式会社増田禎司商店
- 株式会社山口建興
- 斉藤商店
- 志賀英男
- 新堀ときわ会
- 聖心女子学院 中高等科
- もゆる会
- 田島博志
- 手塚真一
- 手作りパンの店 萌留珠
- 東京厚生信用組合 小平支店

東光建設株式会社  
長田皓子

肉の越木屋  
ハトホーム家族会

会長 黒沢昭彦

パリー美容室

半澤恒子

ひばりが丘自治会

ふじみ保育園保護者会

ほんちよう保育園 保護者の会

マイマートきむら

松島クリーニング

松田商店

有限会社榎本豆腐店

有限会社スギモト米店

有限会社鈴木紙工

有限会社高橋米穀店

有限会社たんぼ薬局

有限会社にんや杉田商店

吉田ヨシノ

渡辺電気管理事務所

(五十音順)

新年のご挨拶

明けましておめでとございます。  
旧年中は格別のご高配を賜りまして、誠にありがとうございました。本年も宜しくお願い申し上げます。

村山苑一同

村山苑が経営している施設

- 〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-7-5  
●法人本部 ☎042-3993-8496
- むらやまえん 生活相談所 ☎042-313-0301
- 村山荘 (救護施設) ☎042-3991-1262
- ハトホーム (特別養護老人ホーム) ☎042-3993-7574
- ハトホーム在宅サービスセンター ☎042-3998-2555
- 福祉事業センター (障害福祉サービス事業) ☎042-3995-3636
- ふじみ保育園 (保育所) ☎042-3994-9936
- 〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-8-2  
●さつき荘 (救護施設) ☎042-3996-2244
- 〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-2-2  
●つばみ保育園 (保育所) ☎042-3993-6400
- 〒189-0014 東京都東村山市本町3-43-1  
●ほんちよう保育園 (保育所) ☎042-3999-2100
- ほんちようケアセンター (高齢者施設) ☎042-3999-2102
- 〒185-0032 東京都国分寺市戸倉2-27-6  
●ひよし保育園 (保育所) ☎042-843-0202
- 〒204-0024 東京都清瀬市梅園1-3-32  
●第2ハトホーム (特別養護老人ホーム) ☎042-497-3200

▲あともがき▼

明けましておめでとございます。  
いよいよ新しい年がスタートしました。新型コロナウイルス感染症の拡大により、私たちの生活はこれまでとは違う日常になりました。この非常事態に対応することの難しさをひしひしと感じています。新たな社会に順応し、その中でも出来ることを一つひとつ模索して、より良いサービス提供をと心を新たに頑張りたいと思います。皆さまにとりまして良い年となりますよう、ご祈念申し上げます。(Y・S)

―表紙の写真―

「赤松林(清瀬市梅園)」  
提供者 M・O

本誌は本人同意のもとに写真・作品等を掲載しております。

\* \* \*  
ご意見・ご感想等お気付きの点がございましたら、左記へお寄せ下さい。

令和三年一月一日 発行  
東京都東村山市富士見町二七―五  
社会福祉法人 村山苑  
発行者 品川 卓正  
印刷所 東京都同胞援護会事業局  
東京都墨田区両国四―一―八